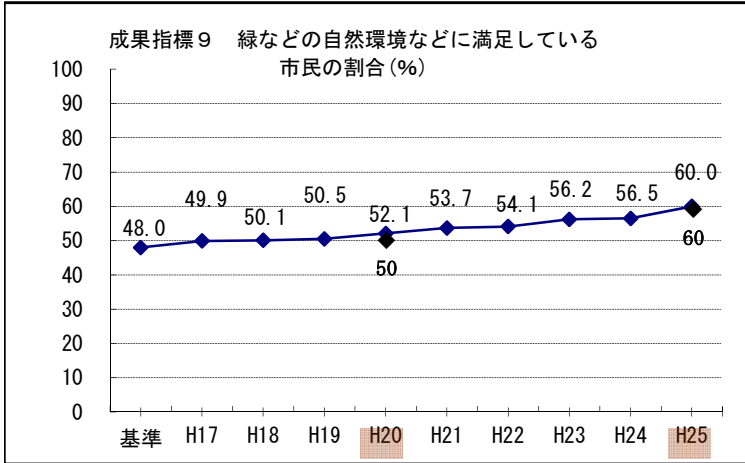


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全

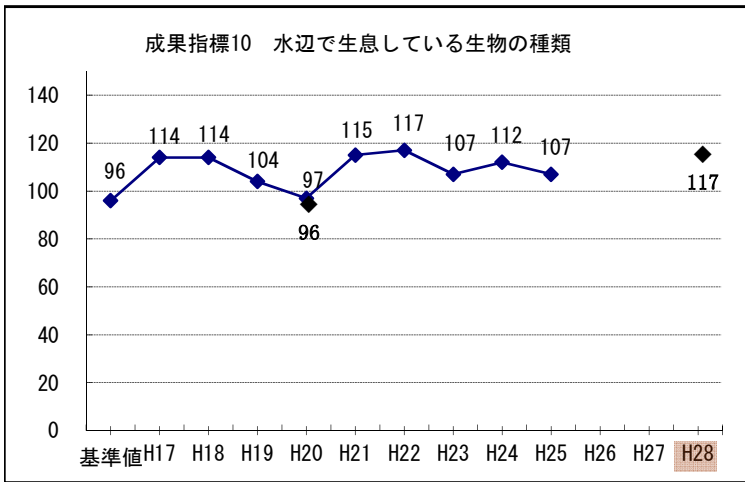


主な事業
 保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 加木屋緑地整備事業
 緑陽公園の整備
 保全計画事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 緑などの自然環境などに満足している市民の割合は、60.0%で目標値に達した。年齢別では16～39歳で71～64%と目標値を上回っているが40歳以上は50%台と目標値を下回っている。職業別ではパート・アルバイト、学生は60%台と目標値を上回っているが、その他は下回っている。学区別では、渡内、横須賀、加木屋、加木屋南では目標値を下回っているが、その他は目標値を上回っている。現行の施策を継続するとともに、緑の基本計画に基づき、さらなる緑地の保全と創出に努めていく必要がある。



主な事業
 河川ため池水質浄化事業
 東海市エコスクール

計画通りに成果が上がっているか

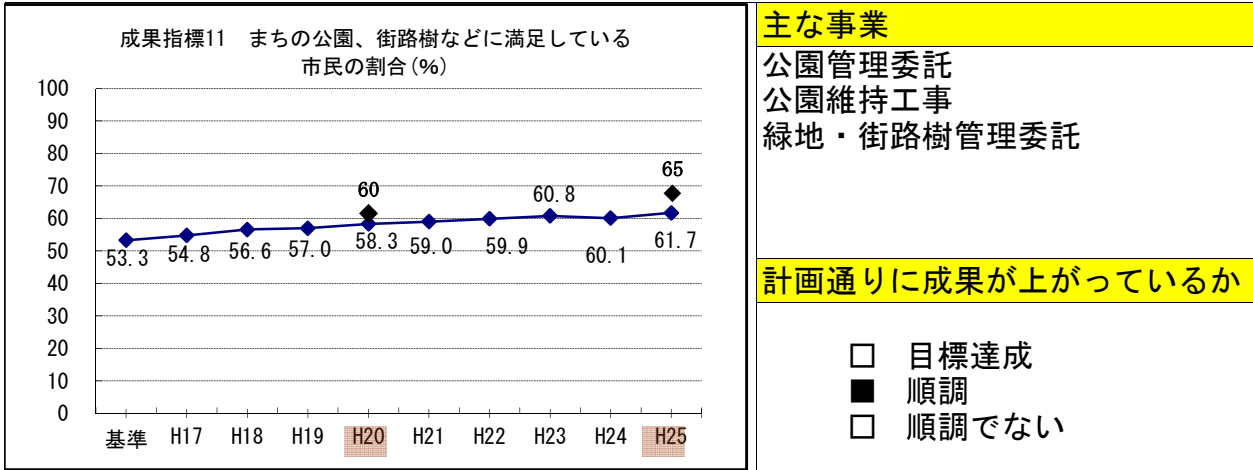
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 25年度は昨年度と比較し、5種類の生物が減少している。ここ数年増減を繰り返しており、目標を達成していない。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 緑の基本計画に基づき加木屋緑地や緑陽公園等の整備・保全を進めるほか、保全地区・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。
 水辺で生息している生物の種類は、下水道の整備や河川に関するエコスクールを開催することにより河川環境に対する啓発や意識向上を行っていく。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

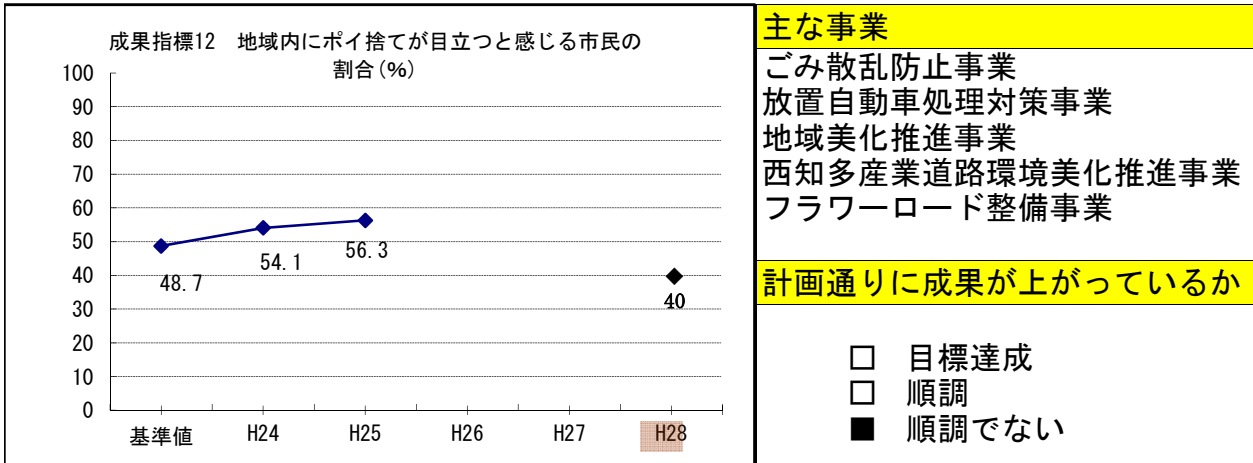
満足度については、昨年度より1.6%増加しており順調に増加しているものの目標値には達していない。男女別では男性61%女性62%と差異はなかった。年齢別では16～19歳が80%と高く、職業別では学生が79%と高いが後は60%前後とそれほど差異がない。学区別では緑陽地区が72%と最も高く、加木屋地区の52%が最も低かった。管理の推進にともない少しずつではあるが数値が向上している。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はあると考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

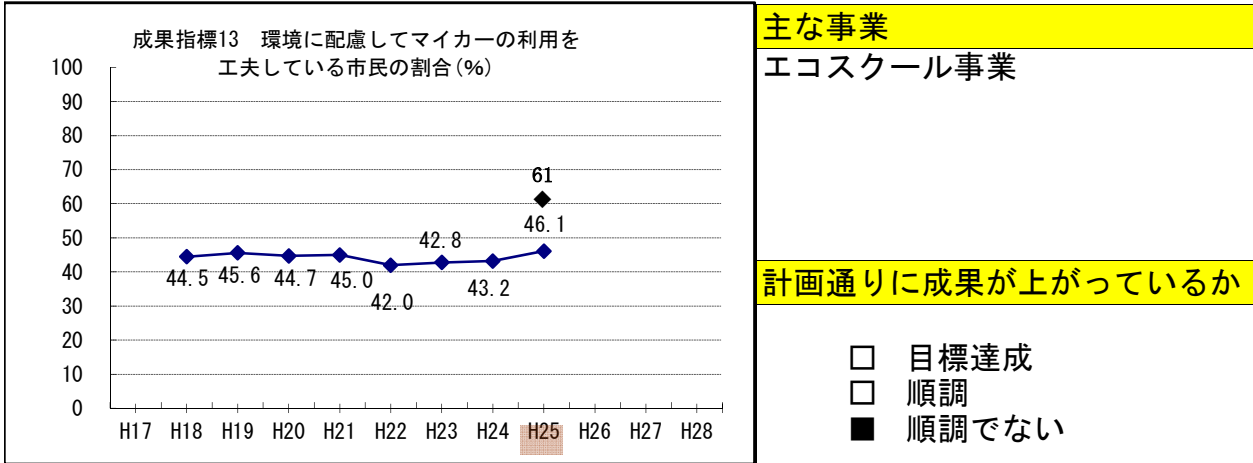
平成25年度は、昨年度よりも2.2%、基準値よりも7.6%悪化した。指標は悪化しているが、不法投棄されたゴミの回収量は年々減っているため、指標が上がっていることの要因としては、市民のゴミ問題に対する意識レベルが向上したのではないかと考える。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

今後も、市民にポイ捨てをしないようモラル向上が必要であり、啓発活動や地域美化活動の促進を図ることが必要。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備



成果指標の分析
 昨年度と比較し、2.9%向上したが、目標値と比較するとほぼ横ばいといえる。工夫の内容としては、マイカーを控える割合が多く、次いでアイドリングストップをしているとの理由が多かった。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 指標値の改善には、市民、企業の環境保全に配慮した活動を促進のためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより成果向上する余地がある。